

税に向き合うべき理由

東京都立桜修館中等教育学校 3年 脇田 真優

私たちのような若い世代ほど税金について詳しく知り、理解していかなければならないと私は考えます。それは、私たちがこれから納めなければいけない税金の額が今までよりも上がるのではないかと思うからです。私がこれから税金の額が上がると思う理由は主に次の三つです。

一つ目は新型コロナウイルスの対策に多くの税金が使われたことです。二〇二〇年から始まり、いまだ終わりの見えない新型コロナですが、多くの国民を守るために多くの税金が使われました。感染拡大防止対策に使われた総額は六十兆円以上にもなったといえます。

二つ目は税金を納めることができない人が増えているということです。二〇二〇年四月から度々緊急事態宣言が発出され、人流が止まったことで経済が回らなくなりました。そうした影響でサービス産業が大きな打撃を受けたり、リストラが起こったりして失業者が増えています。総務省が発表した労働調査によると、二〇二一年四月から六月の失業者は二百三十三万人にも上り、そのうち三割以上の七十四万人が一年以上も仕事に就けていません。このままのコロナの状況が続くと、対策のためにさらに多くのお金が使われ、納税するのが難しい人が増えるため国の税金が減ってってしまうのではないのでしょうか。

三つ目は少子高齢化の影響です。日本は少子高齢化の進行が深刻だと言われています。高齢者が増えると、医療や介護、年金などに使われる税金が増えていきます。しかし、高齢者を支えることのできる若者の人数は減っていくので、若者一人の負担を大きくしなければ私たちの生活を支えていくのは難しくなっていくと思います。

このように様々な理由で税金の額が上がるかもしれない世の中ですが、私は高い税金を払わなくてもいいようにするのではなく、税金が高くなっても不満が出にくい世の中にしていけばいいのではないかと考えます。今は消費税が八パーセントから十パーセントに引き上げられただけでも不満が出ていますが、それは税金に生活が支えられていると感じている人が少ないからではないかと思います。フィンランドは消費税が日本の約二.五倍の二十五パーセントにも関わらず世界幸福度ランキングで四年連続一位を取っています。その理由として、医療費や教育費などの個人の負担がないことが挙げられます。沢山払っている税金が自分たちのために使われていると実感できるので不満が出ずに幸福だと感じているのではないのでしょうか。したがって、日本も税金の使い道を可視化し、納税者が利益を享受していると感じられるようにするべきだと思います。私たち若い世代が税金について正しい知識を持ち、理解しようとすることで前向きに税をとらえられ、より幸せな生活を送ることができるようになるのではないのでしょうか。